

財団法人 英語教育協議会

平成22年度（2010年度）事業報告

1. 英語教育に関する研究

“Advisory Board”（委員長：小池生夫 慶應義塾大学・明海大学名誉教授、委員：和田稔 明海大学名誉教授、委員：金谷憲 東京学芸大学教授）を3回開催し、英語教育の現状、『英語展望』のテーマと執筆者、「ELEC英語教育研修会」の構成、テーマ、講師などについて助言をいただいた。『英語展望』では「地球語としての英語」をテーマに挙げ、国際社会における英語教育の位置づけ、日本の英語教育での役割を考えるよう提示した。「ELEC情報・資料の収集および分析研究グループ」の研究成果を引き続き『英語展望』誌上で発表した。

2. 英語教員に対する専門的な研修会の開催

(1) ELEC英語教育研修会(The ELEC Seminars for English Teachers)

文部科学省後援のもとに、各1日制の研修会をELEC英語研修所にて下記のとおり実施した。

夏期：7月26日～8月14日 受講者数：584名（前期603名）

冬期：12月25日～27日 受講者数：144名（前期92名）

春期：3月26日～31日 震災により全講習を中止とした。

合計728名（前期878名）

なお、昭和32年以来の受講者累計は16,095名となった。

(2) その他教育委員会主催 教員研修会支援事業

下記の教育委員会主催の教員研修会を委嘱され実施した。八王子市教育委員会の研修は2003年度より継続実施している。

八王子市： 1日間 2.5時間 1クラス 受講者数43名

3. 一般成人に対する英語講習会等の開催

(1) ELEC英語研修所(The ELEC Institute)

2010年度の受講者数は501名と前年度を12パーセント下回り、継続率は約70%であった。

また、受講生は前年度比68名減少（新規受講生は23名増）だった。

今年度の主たるポイントは以下の通りである。

1. 教務部のプログラム創出力の増強
(プライベート・レッスンへの対応力の強化)
2. 特化した内容へのプログラム作りの取り組み
(発音力アップ、基礎力増強等)
3. 英語サロンの実施
1回実施 「翻訳の世界へようこそ！」

2010年度のコースは前年度と同様のコース設定で開講した。日本人講師によるTOEIC指

導講座をプライベートレッスンで実施し、これを企業からの受託講座に発展させ、さらに TOEIC 指導のための「講座力」のアップを推進している。

今期の開設コースは以下の通り

総合英会話コース：

- 午前部 週2日コース (月・水/火・木)
週1日コース (火/金/土)
- 午後部 週2日コース (月・水/火・木)
週1日コース (木 /金/土)
- 夜間部 週1日コース (月/ 火/ 水/木 / 金)

ビジネス英語コース

- 夜間部 ビジネス英語上級コース (火)
ビジネス英語中級コース (金)

スキル・トピック別コース

- ムービー (金)
- リスニング (中級) (金)

ディスカッションコース (中・上級) (金)

ディスカッションコース (上級) (金)

非学期制プライベート・レッスン：

2008年冬学期から開始した自由度の高いレッスンは好評を博した。学期制ではなく開始日及び終了日並びに回数及び日程変更回数等の自由度を高めたため年間延97名の受講者を得た。

- 1) 週1回 月、火、水、木、金の午前・午後 (1レッスン45分)
従来の学期制レッスン
- 2) 受講回数及び曜日・時間等を予め決めるレッスン (1レッスン45分)
非学期制 プライベートレッスン

本年度の研修所の延べ受講者数は以下の通りであった。*():2009年度

春 学 期	1 2 3	名 (1 4 9名)
夏 学 期	1 3 7	名 (1 5 4名)
秋 学 期	1 2 5	名 (1 3 8名)
冬 学 期	1 1 6	名 (1 2 8名)
合 計	5 0 1	名 (5 6 9名)

(2)官公庁及び企業研修並びに大学受託講座

研修予算カットにより既存客からの継続受注の打ち切りが度重なる厳しい年度となった。新規受注に奔走したが開始決定までに時間が掛かる状況にしばしば直面した。新規顧客を獲得したが受託金額が少額なものに留まった。

既存企業の継続的な研修獲得のためにBy-Emailコースによる企業内個人受講者に直接指導する添削形式のサービスを付けたところ好評で、実際の研修復活の足がかりとなるケースになると期待している。

大学からの受託講座については、朝鮮大学校を新規受託した他、既存の講座では神奈川大学外国語学部での受託講座増が9クラスと好調であり、神奈川大学では学生のTOEICスコアが平均68点アップした。また、熊本大学東京サテライト校での受託講座は継続実施となった。大学教育市

場においては、実務的な英語運用能力及び大学教育としての基礎力の養成の両面が要求されていることを考慮したシラバス作りが求められている。

(3) 英文添削

本年度の英文添削サービスの利用件数は個人9名並びに法人24社であった。また、翻訳業務については依頼内容は論文の概略、中学/高校教材原稿及び企業が行う交渉のための手紙文並びにデータを添付しての実務交渉文の翻訳・添削がニーズとしてあった。

4. 英語教育に関する資料の頒布

(1) 定期刊行物

・ 『英語展望』 (E L E C Bulletin) 第118号
特集『地球語としての英語を考える』

・ English Teaching FORUMの頒布 Vol. 48 Nos. 1, 2, 3, 4

(2) 録音教材

今期の売上は1億4,411万円(予算1億5,000万円:予算比3.9%減少)となった。売上減少の一因は、出版業界の不況が関係している。

従来ELEC録音スタジオは出版社や編集プロダクションを顧客とする市場で評価を得てきた。今後は既存顧客の信頼を維持しながら、Webサイトを作成する業者へアプローチをするとともにそれらを手がける広告代理店にも積極的にアプローチしていきたい。

5. 英語教育の研究に対する援助と助言

E L E C 賞

2010年度のE L E C賞は、厳正な審査の結果、A部門のみ1名が受賞された。

A部門 受賞者: 大塚 徹氏(北海道静内高等学校)

受賞論文: 学年共通ハンドアウトにより、授業をALL ENGLISHで行う実践―「生徒中心の授業」への転換を目指して

B部門 該当なし

本E L E C賞の提供を通じて最新の現場教育の立場と教授法の理論的研究等を収集し、英語展望へ掲載することにより周知をはかった。また、「北海道新聞」にもE L E C賞が掲載されE L E C賞及びE L E CのPRにつながった。

6. 語学教育研究諸機関との連絡協力

大学英語教育学会(JACET)、語学教育研究所、ELEC同友会、全国英語教育研究団体連合会、日本児童英語教育学会等への研究大会に参加。研究発表に対して積極的に意見交換を行なった。

7. その他の事業

英語を実践する企業等の現場と英語を教育する現場との乖離の実態を明らかにして、ELECとして

の実践的な提言を行なう。具体的には下記の活動を行なった。

- ・ 英語サロンの実施 2010年7月 テーマ：「翻訳の世界へようこそ！」
講師：メディア総合研究所 城森部長他 参加者17名
- ・ E L E C 賞授与式・特別講演会 2011年2月 テーマ：小学校外国語活動を通して子どもたちをどう
育てるか
講師：文部科学省教育課程調査官 直山木綿子氏
参加者60名